

## 造園大賞の受賞

2005年に「文化的景観」が文化財類型に加わり、翌年の2006年に奈良文化財研究所に景観研究室が新設されました。筆者が採用されたのはその翌年の2007年、所内初の文化的景観の研究員として、でした。しかし、当時は文化的景観保護に関わる制度も概念も未熟で混乱のさなか。関わる皆が手さぐりの状態の中、藁にもすがるような思いで質問されるものの答えられず、苦しい状況が5年ほど続きました。このような手さぐりの状況を、「フィールドで調査する」「みなで議論する」「形にして伝える」という3つの方法を相互に関わらせながら進めることで、徐々にこの悶々とした状況を整理していくことができたと思います。

フィールドでの調査は、四万十川流域を皮切りに、宇治市、京都市、佐渡市、岐阜市等で実施してきました。こうした実践的研究と平行して2008年度から文化的景観研究集会を毎年開催し、2015年度からはシンポジウムとともにポスター・セッションとエクスカーションもスタートさせました。文化的景観の学術や取組に関わるメンバーにとっての情報交換の場となりつつあります。ただし、文化的景観研究集会は公開型のシンポジウムのため踏み込んだ議論をすることがむずかしく、2012年度からは少数の固定メンバーで議論をおこなう「文化的景観学検討会」も立ち上げ、定期的に話し合いをおこなっています。

また、調査報告書やシンポジウムの報告書等を1年に1冊は刊行するようにしています。研究成果をひろく伝えるためですが、文字にすることで考えを整理するという側面もあります。2015年度からは「文化的景観スタディーズ」というシリーズ名をつけての刊行をスタートさせました。

こうした取組をおこなってきたことを受け、本年5月、「文化的景観の概念形成と制度運用の充実に資する貢献」として東京農業大学より造園大賞をいただきました。しかし、この栄誉はけっして筆者個人に対するものではなく、文化的景観に関わる調査研究をともにおこなってきた歴代景観研究室のメンバー、文化財や都市計画、地域づくり等のさまざまな立場の行政担当者、地域住民やコンサルタント等の方々との協働に対するものだと理解しています。

(文化遺産部 惠谷 浩子)

## 「文化財保存修復研究基金」へのご寄附のお願い

奈良文化財研究所は、主に平城宮跡や飛鳥・藤原宮跡等の都城遺跡の発掘調査研究を通して、日本の古代国家誕生の歴史と日本文化の形成過程の解明に努めています。さらに、長年にわたる都城遺跡の調査研究で培った知識や技術を、全国の遺跡の調査研究と保存、整備活用に役立てるとともに、海外の遺跡保護のための国際協力事業や技術移転にも積極的に取り組んでおり、その活動には、国内外から大きな期待が寄せられています。

こうした奈文研の調査研究業務は、国からの運営費交付金によって支えられていますが、昨今の厳しい財政状況下で、運営費交付金が減額の一途をたどっており、広く外部資金を獲得して、研究所の運営に役立てることが求められていることから、「文化財保存修復研究基金」を創設し、皆様に広くご寄附をお願いすることにいたしました。

寄附金については、通常の奈文研の調査研究業務のほかに、以下の事業に重点的に活用いたします。

- ① 被災文化財の救出と保存修復事業
- ② 国際協力事業（カンボジアのアンコール遺跡群  
西トップ寺院の修復事業等）
- ③ 埋蔵文化財の発掘調査報告書の全文電子化と  
公開事業（『全国遺跡報告総覧』の整備）
- ④ 木簡の水洗作業と保存処理事業
- ⑤ 発掘された遺跡の地震・火山災害に関する情報  
収集とデータベースの構築・公開事業

なお、寄附の方法、その他詳細につきましては、奈文研ホームページをご覧ください。

皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

(研究支援推進部 津田 保行)

